

高校数学の受講のしかた（2024年度）

【1】高校数学は、次の6科目から選んで受講できます。

- (1) 数学Ⅰコース，数学Aコース
- (2) 数学Ⅱコース，数学Bコース，数学Cコース
- (3) 数学Ⅲコース

【2】受講のしかた

(1) 基本的には、1科目週1コマずつの授業です。（1コマ90分授業です。）

(2) 2科目を受講する場合は、週2コマずつ受講して下さい。

このようにしないと学校の授業についていけないからです。

週2コマの時間がとれないときは、週1コマずつ受講していて、遅れている分はスポット授業を利用して遅れを取り戻していく受講方法もあります。

スポット授業を受講する場合は、

- ・受講希望曜日・時間・内容を指定して先生に申し出てください。
- ・席が空いていれば受講できます。空いていないときは調整します。

(3) 受講科目の変更はいつでもできます。月の途中からでもできます。

学校の進度に合わせて受講科目を変更して下さい。

変更は、1週間ほど前までをお願いします。（教材の準備のためです）

【3】学習のレベル

(1) 通常は、学校の定期テストで目標とする得点をとるための学習指導を行います。

課題プリントや指定問題集の問題がすべて解けるようになったからといってテストで高い点数が取れるとは限りません。テストでは同じ問題が出題されるわけではないからです。テスト範囲のどこから出題されても確実に解けるような力をつけておく必要があります。

そのためには、そのテスト範囲の内容を”体系的”に学ぶことです。

”体系的に学ぶ”というのは、その範囲には、どんな解法パターンの問題があり、それらはどのような関係で繋がっているかを知る、ということです。

いわば、頭の中に解法パターンの知識の”網”を作ることであるともいえます。

この網は単なる解法パターンの羅列ではなく、解法パターン間の関係も含んだ知識であることに注意して下さい。この関係が応用力の源泉になっているのです。

テストで目の前の問題をみたとき、この”網”を思い浮かべ、この問題はどの解法パターンの問題であるかを確定し（解法を確定するときに解法間についての知識が使われます）、そのパターンの解法プロセスにしたがって問題を解くこととなります。これが、”応用力”の具体的な思考プロセスの姿です。

そこで、数専ゼミでは、解法パターン別に問題を解かせ、それぞれの解法プロセスを理解させると同時にそれらのパターン間の関係をも抑えさせます。

なお、ある単元では、どのような解法パターンの問題を学習するのかについては、

その単元の「学習計画書」にリストアップしてありますし、それらのパターンがどのような関係で繋がっているのかも説明してあります。

(ただし、解法パターン間のより詳しい関係(構造)については、教材の【考え方】の中で説明してあります。)

塾の授業時間の制約から、テスト範囲をすべて指導することはできませんので、学習したい項目を選んでいただき、それを集中的に指導します。

より多くの項目を学習しておきたい場合は、スポット授業をご利用下さい。スポット授業の受け方によっては、テスト範囲をすべて学習できます。

(2) 学校の授業とは関係なく、

模試や受験対策のための既習事項の復習(弱点補強)もできます。

どんな単位でも復習することができます。

たとえば、「因数分解のたすきがけ」だけとか、「確率で反復試行の確率と条件付き確率」だけ、あるいは、「漸化式をすべて」などなど…

学習したい内容をお申込下さい。塾で教材を準備し、指導します。

塾の教材は、すべて解法パターン別に構成されており、それを前から順に解くことによってあなたの解けない問題のパターンを見つけ出すことができます。

そこを集中的に攻略すれば、短期間に解けないを解けるに変えることができます。

(3) 時間に余裕があったり、力のある人には入試問題(2次出題問題)レベルの問題などもやります。(教材には☆発展問題☆というタイトルがついています。)

共通テストは、問題が特殊なので数学の基礎を習得するには適していないからあまり早くからやっても、時間の無駄になります。

共通テスト対策については、3年の10月からやります。

共通テストはていねいな解説書も出版されていますし、学校でも指導するとおもいますので、塾ではもっぱら共通テスト模試演習を行います。

初見で解ける力、時間内に解く力をつけます。

だから、3年の9月までには、共通テストの過去問の解説を読んで、自分の力だけで理解できる”基礎力”を身につけておきましょう。

そうすれば、自分の計画で、ハイスピードで共通テストの過去問を学習することができます。

(センター試験までやっておくことをお勧めします。共通テストには多くの問題点があり、センター試験の傾向に戻る可能性もあるからです。)

(4) 2次対策(数学)は、山形大学の入試問題を解くための基礎と過去問指導です。

医学部対策(数学)まで指導します。